

受難日礼拝

「信じるに値するもの」

I テモテ 1:15-16

2018.3.30 HKJCF

1

I テモテ 1:15-16

1:15 「キリスト・イエスは、罪人を救うためにこの世に来られた」ということばは、まことであり、そのまま受け入れるに値するものです。私はその罪人のかしらです。

1:16 しかし、そのような私があわれみを受けたのは、イエス・キリストが、今後彼を信じて永遠のいのちを得ようとしている人々の見本にしようと、まず私に対してこの上ない寛容を示してくださったからです。

2

概観

イエス様はなぜ十字架にかけられたか、罪人として認識すべきものは何か、そして私たちは何のために救われたのかを確認していきたい。

アウトライン

1. 救いの使命 V15
2. 救いの対象 V15
3. 救いの目的 V16

3

1. 救いの使命 V15

キリストの使命＝罪人を救うために世に来られた。
馬小屋⇒十字架(ルカ 19:10;ヨハネ 1:29)。

ことばは、まことである:復活のイエスに出会ったパウロの証言(使徒 9:3-6);その他の証人(I コリント 15:3-8);ケパ、ヤコブとパウロの**変化**。

そのまま受け入れるに値するもの:パウロの Before and After; 恵み、信仰と愛に満ち溢れるようになった生活(I テモテ 1:12-14)。

4

2. 救いの対象 V15

罪人=(*ἁμαρτωλός, hamartólos*): 的外れ、見当違いの生活をする人; プレている生き方をする人。

私はその罪人のかしら＝使徒になっても、自分の罪深さを自覚している(I コリント 15:9)。失われている、どうしようもない状態にあるという認識。

しかし、そのような私があわれみを受けた＝「もしこの私が救われたならば」⇒神様の恵みの大きさを想像することができる。神様の御心は?

5

3. 救いの目的 V16

見本にしようと＝パターン、アウトライン、スケッチ。救いのご計画の「**未完成のスケッチ**」。

「神の恵み」という絵の完成: 罪人のかしらであるパウロに“この上ない寛容”が示された。不完全さに恵みが注がれることを示すために; (*ἐνδείκνυμι, endeiknumi*): 明らかにする、証明する、**展示する**。

適用: 彼を信じて、永遠の命を得ようと: 自分の生活が**求道者の見本**となるように。

6